

情報処理技能検定試験

データベース

模擬問題集

Microsoft Access 2013

試験問題解答方法

2021 年 4 月

3・4級編



日本情報処理検定協会

情報処理技能検定試験（データベース）についての注意事項や作成手順などを紹介します。ここで紹介する手順は、Microsoft Access2013 を基に説明しています。

練習を始める前に

情報処理技能検定試験（データベース）問題文の構成

情報処理技能検定試験(データベース) 4級練習問題

<問 題>

1. 各テキストデータ（日本語シフト J I S、CSV形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。

文字は左揃え、数値は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。

2. テキストデータは DB4-00 フォルダ内のデータを使用する。

3. 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校CO	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

※学校マスタ.csvの1行目は項目名とする。

KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒CO	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11
	得点	長整数型	42

<処理条件>

得点が50点以上の高得点者一覧表を作成する。

1. それぞれの学校COを関連付けしなさい。

<出力例>のとおり、それぞれの項目を選択しなさい。

得点が50以上を抽出しなさい。

[処理結果件数：5件]

2. 表を作成しなさい。

表題は“高得点者一覧表（50点以上）”とする。

データの並び順は得点の降順とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

<問 題>

テキストデータのコード・形式、文字・数値の配置・コンマ付け、保存されているフォルダ名、試験時間について記されています。

<テーブル定義>

データベース内に作成するテーブルの定義が、基となるテキストデータごとに記されています。

(表の項目の説明)

K E Y : ○印がある項目を主キーに設定します。

項 目 名 : テキストデータを取り込む際に項目名を設定します。

データ型 : 項目のデータ型。

データ例 : テキストデータの、項目名を除いたデータの1行目が記されています。

<処理条件>

この記述に従って、クエリやレポートの作成を行います。

※ [] は処理条件ごとのクエリの結果件数または実行時の件数

<出力例>

このような形式で表を完成させます。

表題、項目、項目の順番、罫線の位置は<出力例>のとおりとします。

※フォント・フォントサイズ・書体は問いません。

用語の説明

日本語シフト J I S : 日本語文字コードのひとつ

C S V 形 式 : ファイル内のデータの形式（Comma Separated Values の略）で、項目がコンマで区切られているファイル形式

<メモ帳で開いたCSV形式のファイル> <Excelで開いたCSV形式のファイル>

学校マスタ.csv - メモ帳	
ファイル(F) 編集(E) 書式(O)	
学校CO,学校名	
11,あずま中学校	
12,豊島中学校	
13,先浜中学校	

A	B
1	学校CO 学校名
2	11 あずま中学校
3	12 豊島中学校
4	13 先浜中学校
5	
6	

デ - タ 型 : 項目（フィールド）に保存できる値の種類

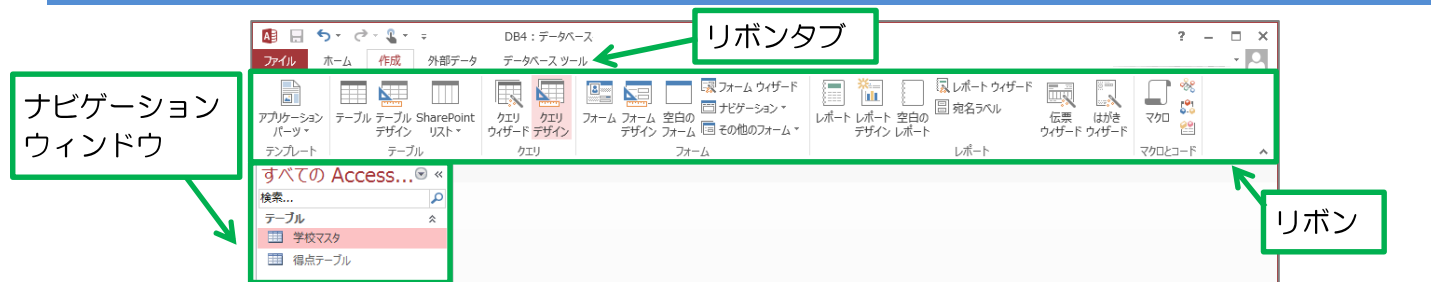
テ - ブ ル : 情報を蓄える場所

ク エ リ : 条件に合わせて情報を抽出する機能

レ ポ ー ト : さまざまな形で帳票を作成する機能

Access の画面構成

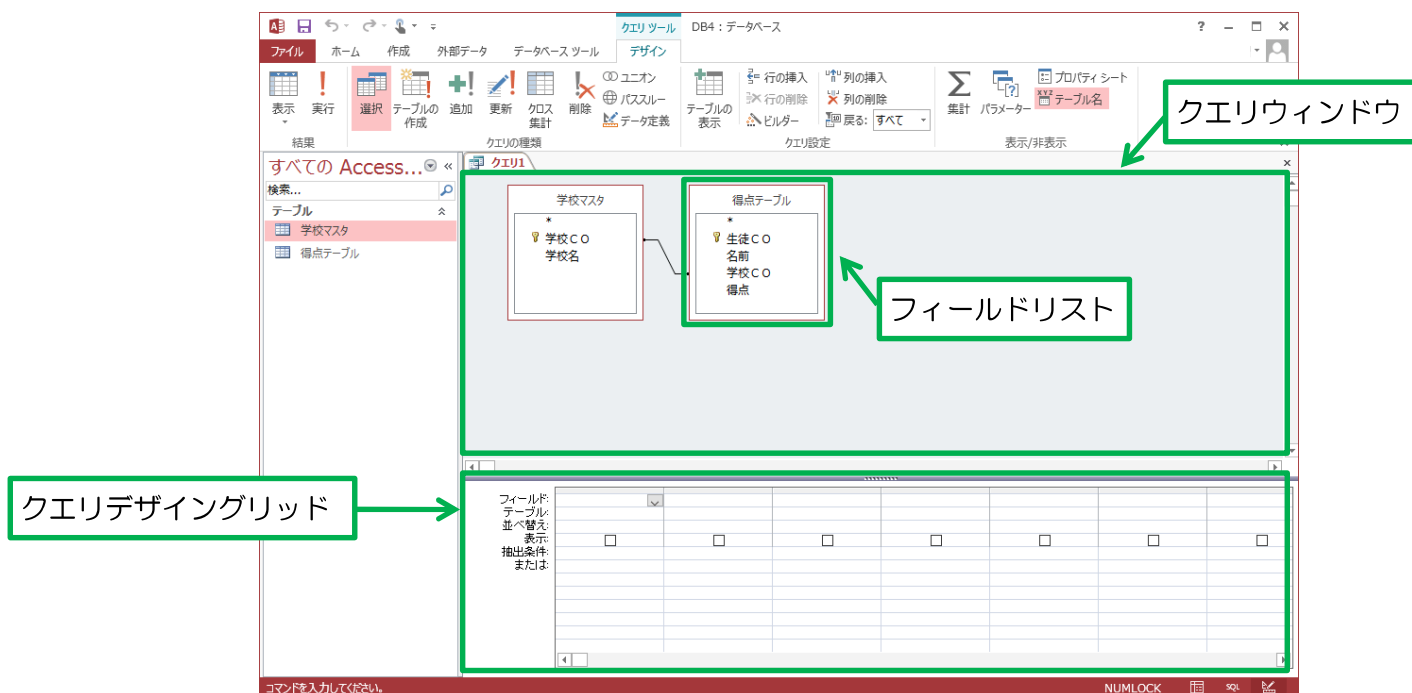
全体の画面について



リボン：リボンの中にあるボタンでさまざまな設定を行います。リボンの上にあるタブを切り替えると設定の内容が切り替わります。

ナビゲーションウィンドウ：データベースのファイル内にあるテーブルやクエリなどを表示します。

クエリの画面について

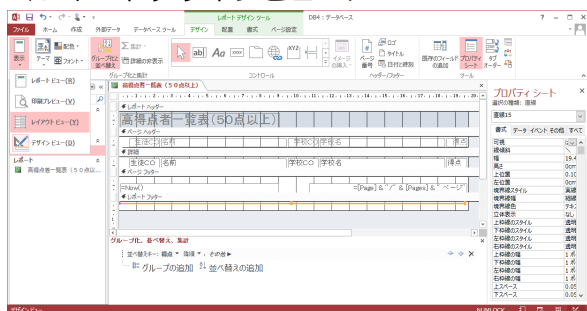


クエリウィンドウ：クエリで使用するテーブルなどを表示します。クエリウィンドウで表示されたテーブルなどの項目一覧を「フィールドリスト」と呼びます。

クエリデザイングリッド：項目（フィールド）をここに追加して結果を表示します。

レポートの画面について

<レポートデザインビュー>



<レポートレイアウトビュー>

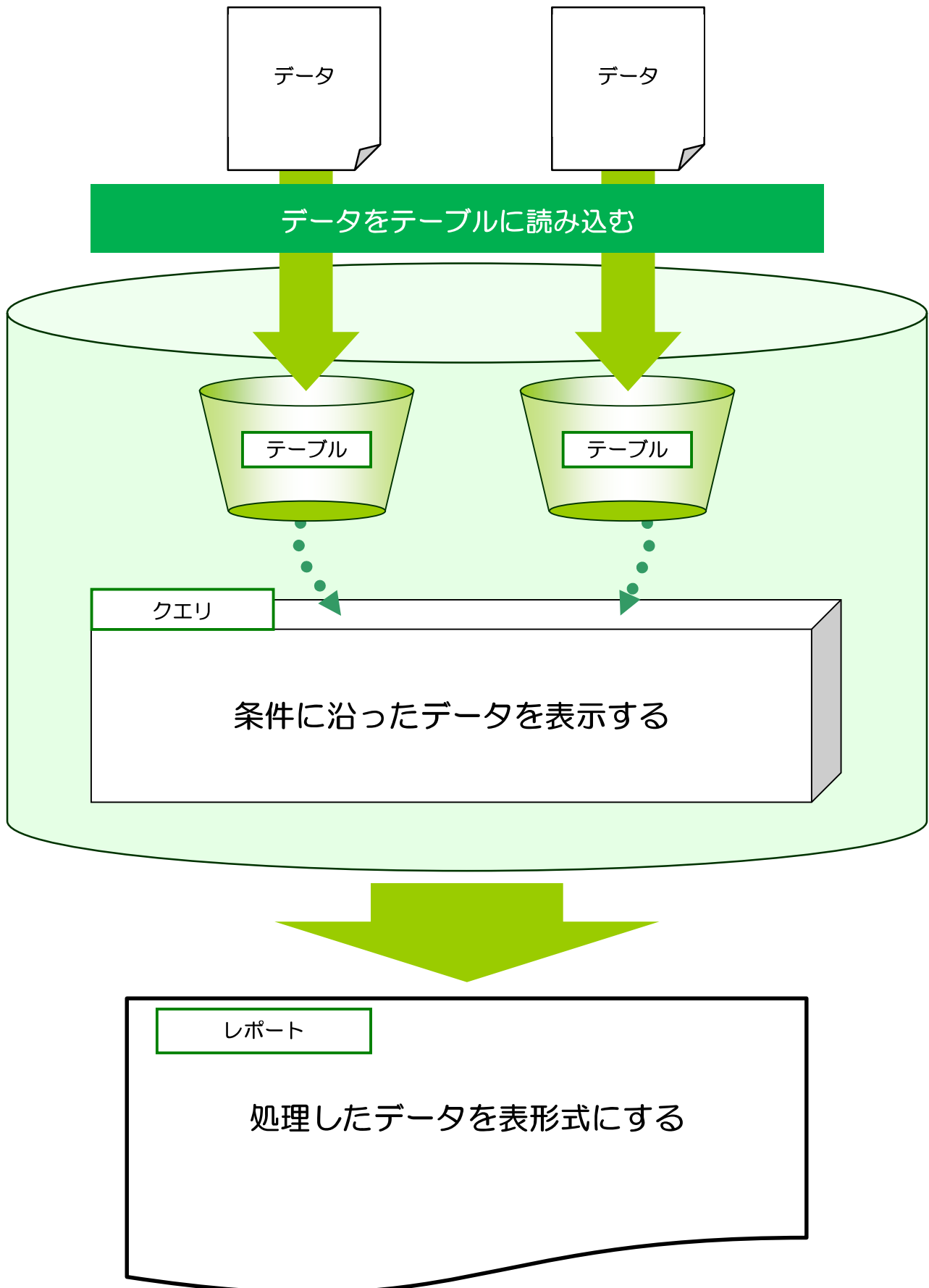


レポートは、作成した表の体裁を整えたり、表示形式を変更したりするため画面を切り替えながら操作します。

レポートデザインビュー：罫線を引いたりテキストボックスに数式を入れたりします。

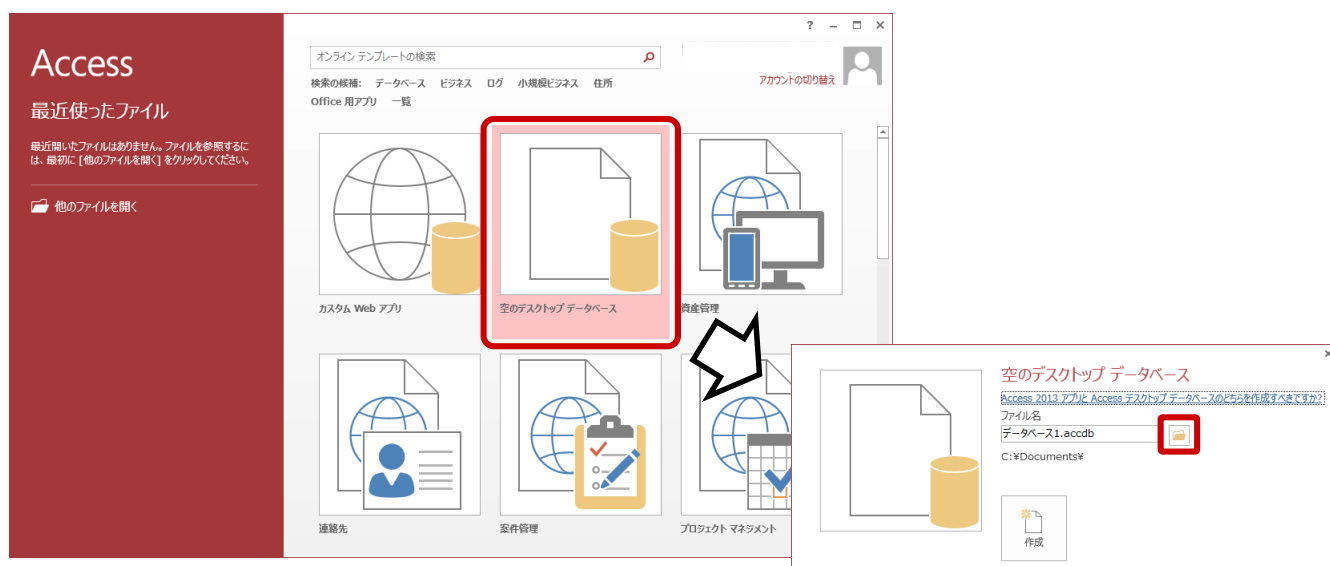
レポートレイアウトビュー：データが表示されるので列の幅を調整しやすくなります。

問題文の指示に沿って、データを処理し、出力例どおりの解答を導きます。

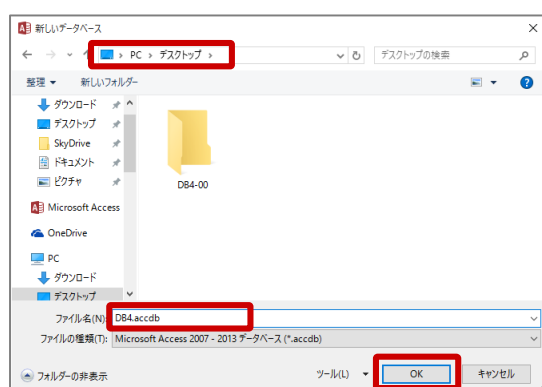


試験前にすること

- (1)使用するソフトを立ち上げます。[空のデスクトップ データベース]をクリックすると保存先を決めるウィンドウが表示されるので、ファイル名横の  フォルダをクリックします。



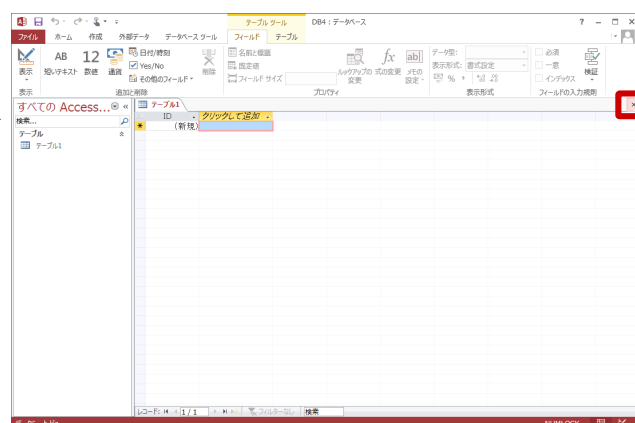
- (2)データベースファイルを指定されたフォルダーに作成します。
保存先を決めて、ファイル名を入力し[OK]をクリックします。
(ここではデスクトップに設定し、ファイル名は「DB4. accdb」とします)



検定のポイント

※保存先およびファイル名の指定はありません。

- (3)ファイル名と保存先を確認し、[作成]をクリックします。検定試験では使用データを読み込み、処理を進めます。新規テーブルが開きますが使用せず閉じます。



情報処理技能検定試験(データベース) 4 級練習問題

<問 題>

- 各テキストデータ（日本語シフト J I S、C S V 形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。
文字は左揃え、数値は桁揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。
- テキストデータは DB4-00 フォルダ内のデータを使用する。
- 試験時間は 2 0 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

学校マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校 C O	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

※学校マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

得点テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒 C O	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校 C O	長整数型	11
	得点	長整数型	42

<処理条件>

得点が 5 0 点以上の高得点者一覧表を作成する。

- それぞれの学校 C O を関連付けしなさい。
<出力例>のとおり、それぞれの項目を選択しなさい。

得点が 50 以上を抽出しなさい。

[処理結果件数：5 件]

- 表を作成しなさい。
表題は“高得点者一覧表（5 0 点以上）”とする。
データの並び順は得点の降順とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

高得点者一覧表（5 0 点以上）				
生徒 C O	名前	学校 C O	学校名	得点
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

4 級練習問題解答方法

問題文を基に処理条件に従って4級の解答をします。使用データは「DB4-00」フォルダーを使用します。

Microsoft Access（以下、Access）では、テキストデータなどの外部データを読み込む機能を「インポート」と呼んでいます。

テーブルの作成

問題文の＜テーブル定義＞を基にテーブルを作成します。インポート機能を使用しCSV形式のファイルからテーブルを作成します。

＜テーブル定義＞

学校マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校CO	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

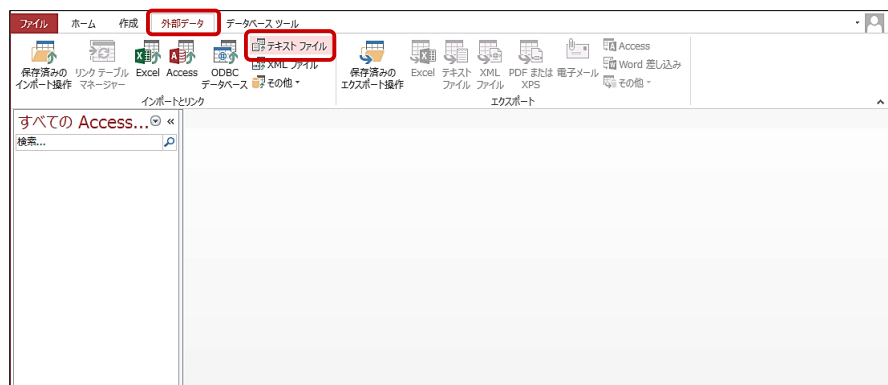
※学校マスタ.csv の1行目は項目名とする。

得点テーブル

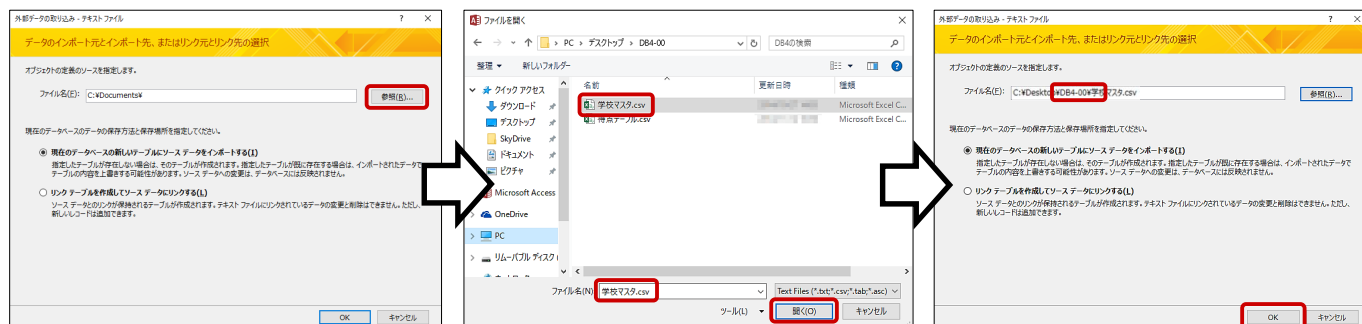
KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒CO	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11
	得点	長整数型	42

本問題では2つのテーブルを作成します。まずは「学校マスタ」を作成します。

(1) [外部データ]タブ-[インポートとリンク]グループの[テキストファイル]をクリックします。



(2) ＜テーブル定義＞と同じ名前のCSVファイルを選択します。ファイル名横の[参照]をクリックし、「学校マスタ.csv」を選択して[開く]をクリックします。ファイル名に「学校マスタ.csv」があることを確認してから[OK]をクリックします。



(3) [区切り記号付き]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

検定のポイント

データについて
インポートするデータは、当協会ホームページよりあらかじめ、ダウンロードしておいてください。

(4) [フィールド区切り記号]で[カンマ]が選択されていることを確認し、[先頭行をフィールド名として使う]にチェックを入れて[次へ]をクリックします。

検定のポイント

「※学校マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。」のように、1 行目を項目名とする指示がある場合、[先頭行をフィールド名として使う]にチェックを入れます。

<テーブル定義>

学校マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校C O	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

※学校マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

(5) [次へ]をクリックします。

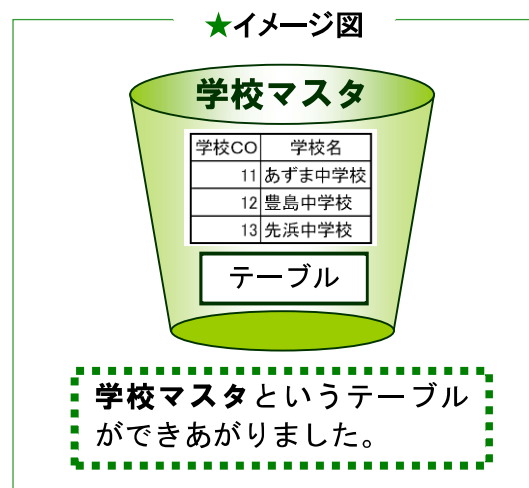
- (6) [次のフィールドに主キーを設定する]をチェックし、リストボックスが[学校C0]になっていることを確認して[次へ]をクリックします。

学校マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校C0	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

※学校マスタ.csv の1行目は項目名とする。

- (7) [インポート先のテーブル]が「学校マスタ」となっていることを確認し[完了]をクリックします。



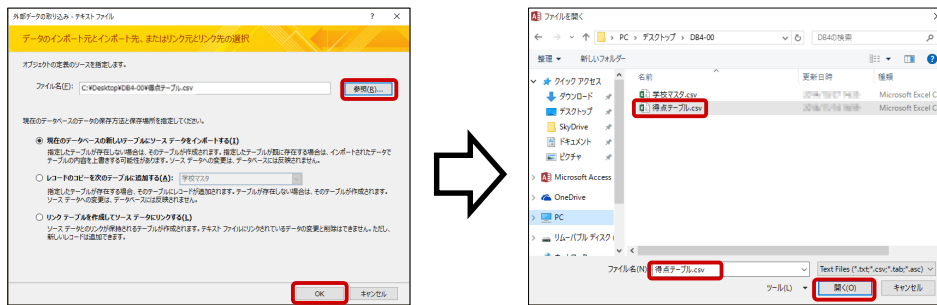
- (8) テキストデータの読み込みが完了すると、[インポート操作の保存]が表示されます。[閉じる]をクリックします。

- (9) 「学校マスタ」のインポートが完了しました。

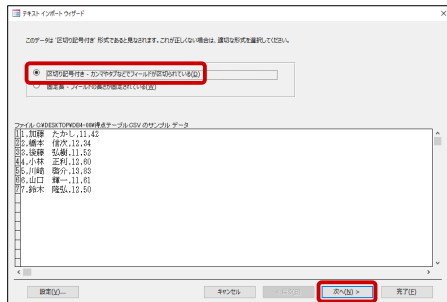
- (10) 次に「得点テーブル」を作成します。[外部データ]タブ-[インポートとリンク]グループの[テキストファイル]をクリックします。



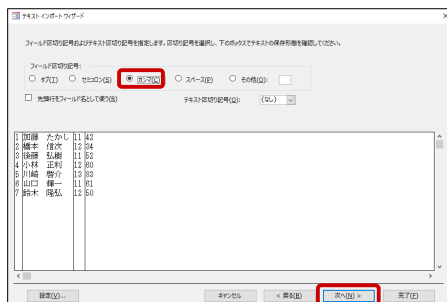
(11) ファイル名横の[参照]をクリックし、「得点テーブル.csv」を選択して[開く]をクリックします。ファイル名に「得点テーブル.csv」があることを確認してから[OK]をクリックします。



(12) [区切り記号付き]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。



(13) [フィールド区切り記号]で[カンマ]が選択されていることを確認し[次へ]をクリックします。

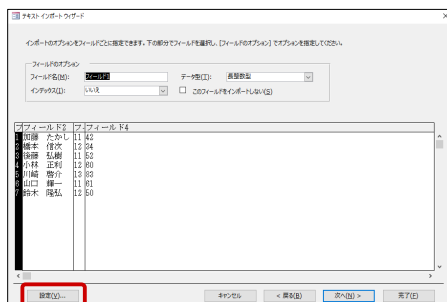


検定のポイント

「得点テーブル」のように表の下に指示が無い場合は[先頭行をフィールド名として使う]にチェックを入れずに進めます。

KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒CO	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11
	得点	長整数型	42

(14) [設定]をクリックします。



(15) フィールド名を設定します。問題文の<テーブル定義>を参照し、すべての「項目名」([フィールド名])を設定し、[データ型]を確認して[OK]をクリックします。

KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒CO	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11
	得点	長整数型	42

検定のポイント

データ型の「テキスト型」は「短いテキスト」であることを確認します。

(16) [次のフィールドに主キーを設定する]をチェックし、リストボックスが[生徒CO]になっていることを確認して[次へ]をクリックします。

KEY	項目名	データ型	データ例
○	生徒CO	長整数型	1
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11
	得点	長整数型	42

(17) [インポート先のテーブル]が「得点テーブル」となっていることを確認し[完了]をクリックします。

(18) テキストデータの読み込みが完了すると、[インポート操作の保存]が表示されます。[閉じる]をクリックします。

学校マスタ.csv

	A	B
1	学校コード	学校名
2	11	あずま中学校
3	12	豊島中学校
4	13	先浜中学校

	A	B	C	D
1	1	加藤 たかし	11	42
2	2	橋本 信次	12	34
3	3	後藤 弘樹	11	52
4	4	小林 正利	12	60
5	5	川崎 啓介	13	83
6	6	山口 輝一	11	61
7	7	鈴木 隆弘	12	50

得点テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	CO	長整数型	1001
○	回数	テキスト型	第1回
	数学	長整数型	42
	英語	長整数型	50

新規システムインプットウィザード

数値データには主キーを設定する必要があります。主キーがあるフィールドの値をコードを一覧に照合できるように、目的のデータを指定する必要があります。

☐ 主キーを自動的に設定する(A)
☐ 入力データから主キーを設定する(B)
☒ 主キーを設定する(C)

主キーを設定する(C)

入力データ

Input Data	Value
1001 第1回	42 5.0
1002 第1回	51 3.3
1003 第1回	63 5.0
1004 第1回	80 9.0
1005 第1回	50 4.5
1006 第1回	54 8.1
1007 第1回	83 8.0
1001 第2回	32 4.8
1002 第2回	38 8.7
1003 第2回	88 5.0
1004 第2回	49 1.0
1005 第2回	57 9.5
1006 第2回	05 5.4
1007 第2回	100 8.5

OK

Figure 1-1-1: Access 2016 Main Screen

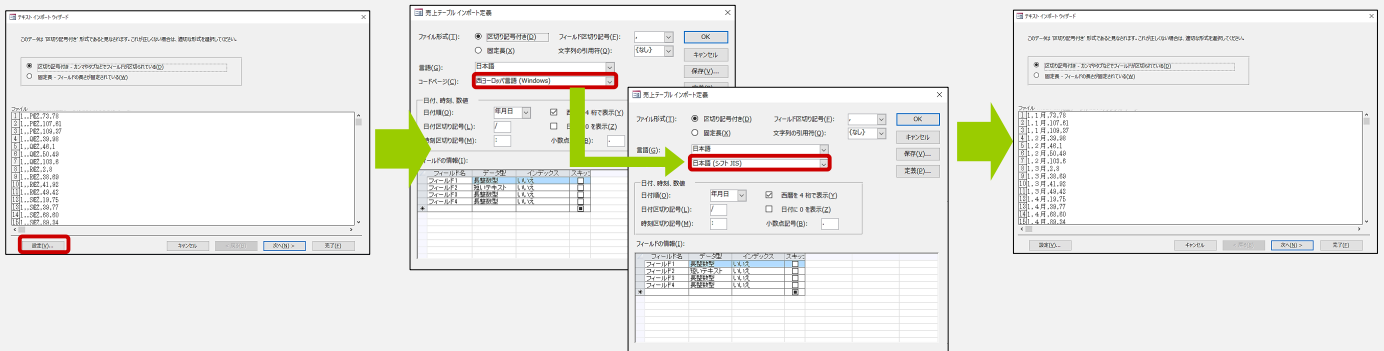
The screenshot shows the Microsoft Access 2016 ribbon with the 'データベース ツール' (Database Tools) tab selected. The 'デザイン' (Design) group is active, displaying various tools for modifying the database structure. The 'フィールド名の変更' (Change Field Name) option is highlighted. Below the ribbon, a table view is visible with columns 'フィールド名' (Field Name) and 'データ型' (Data Type). The table contains fields like '検索...', 'テーブル', '学校マスタ', '短回答', '数学', and '英語'.

検定のポイント

インポート時に文字化けが発生した場合の対処方法

インポートするファイルによっては、Access が文字コードを正しく認識できず文字化けが発生する場合があります。この場合は、以下の手順で正しいコードページに変更する必要があります。

- (1) 設定をクリックします。 (2) コードページから[日本語 (シフト JIS)] を選択します。 (3) 正しく認識されます。



クエリの作成

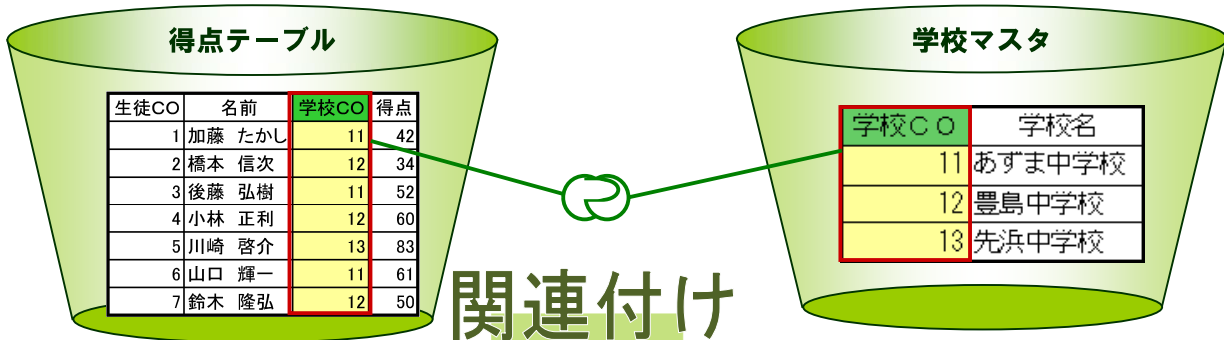
クエリについて

クエリは、関連付けされた複数のテーブルから項目を抜き出してデータを表示させたり、データを計算して表示させたりすることができます。

- それぞれの学校COを関連付けしなさい。
 <出力例>のとおり、それぞれの項目を選択しなさい。
 得点が 50 以上を抽出しなさい。
 [処理結果件数: 5 件]

クエリ

使用するテーブルを選択



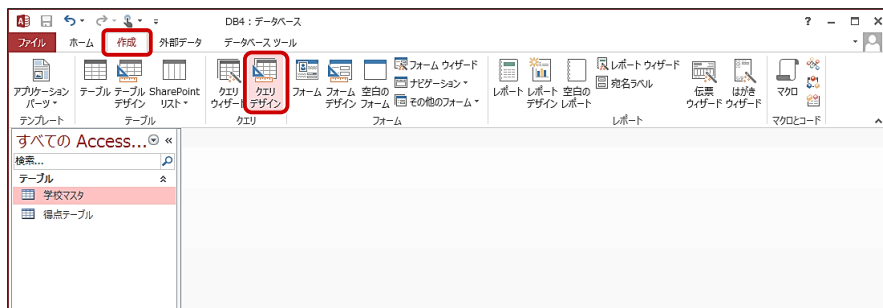
関連付け
必要な項目を選択

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
1	加藤 たかし	11	あずま中学校	42
2	橋本 信次	12	豊島中学校	34
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

得点 50 点以上の各データを抽出

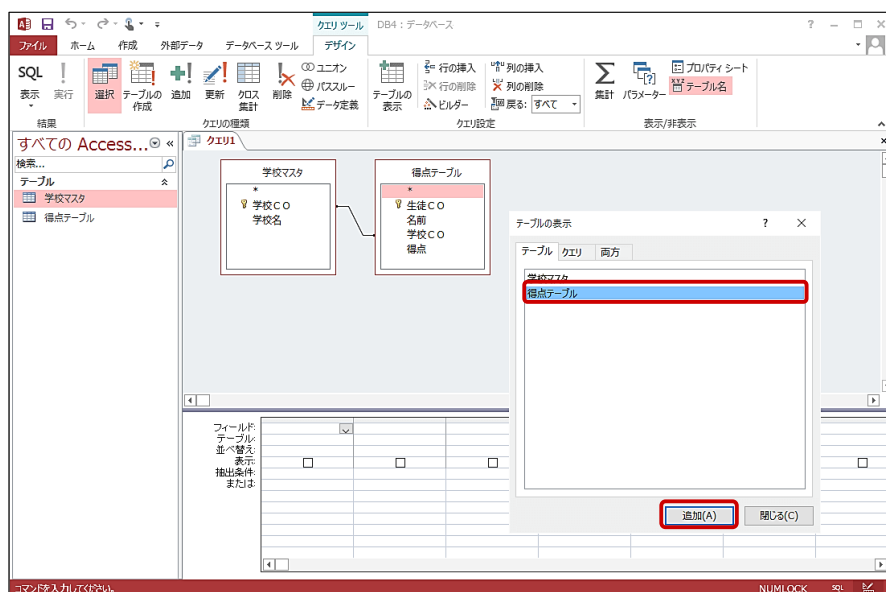
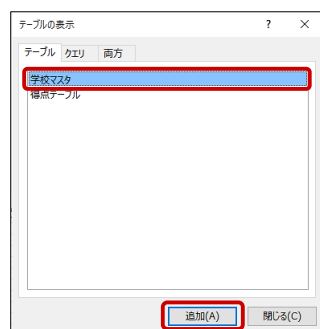
生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

(1) [作成]タブ-[クエリ]グループの[クエリデザイン]をクリックします。



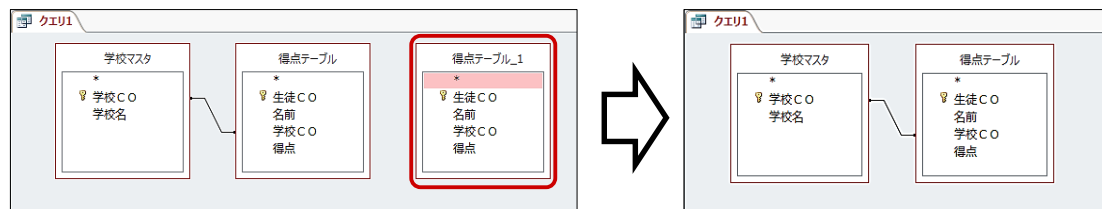
(2) [テーブルの表示]ダイアログボックスが表示されます。

「学校マスタ」が選択されている状態で[追加]をクリックするとクエリウィンドウに追加されます。同様に「得点テーブル」も追加します。追加されたら[テーブルの表示]ダイアログボックスは[閉じる]をクリックします。



操作のポイント

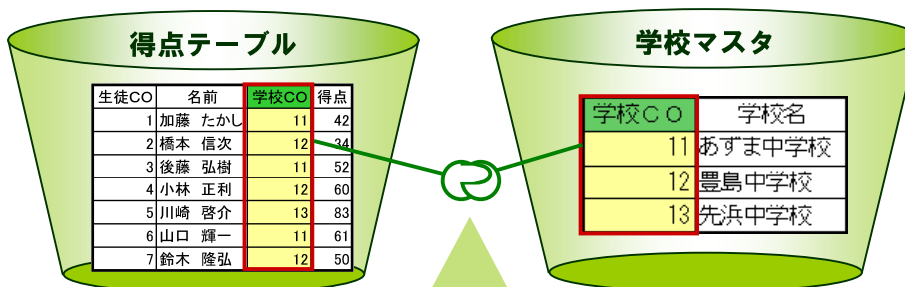
- ※テーブルをダブルクリックしても追加できます。
- ※**Ctrl**キーを押しながらテーブルを複数選択して追加できます。
- ※余分にテーブルを追加した場合、テーブルをクリックして**Delete**キーを押すと削除できます。



項目の関連付け

関連付けとは

得点テーブルは、生徒CO・名前・学校CO・得点という情報を持っています。

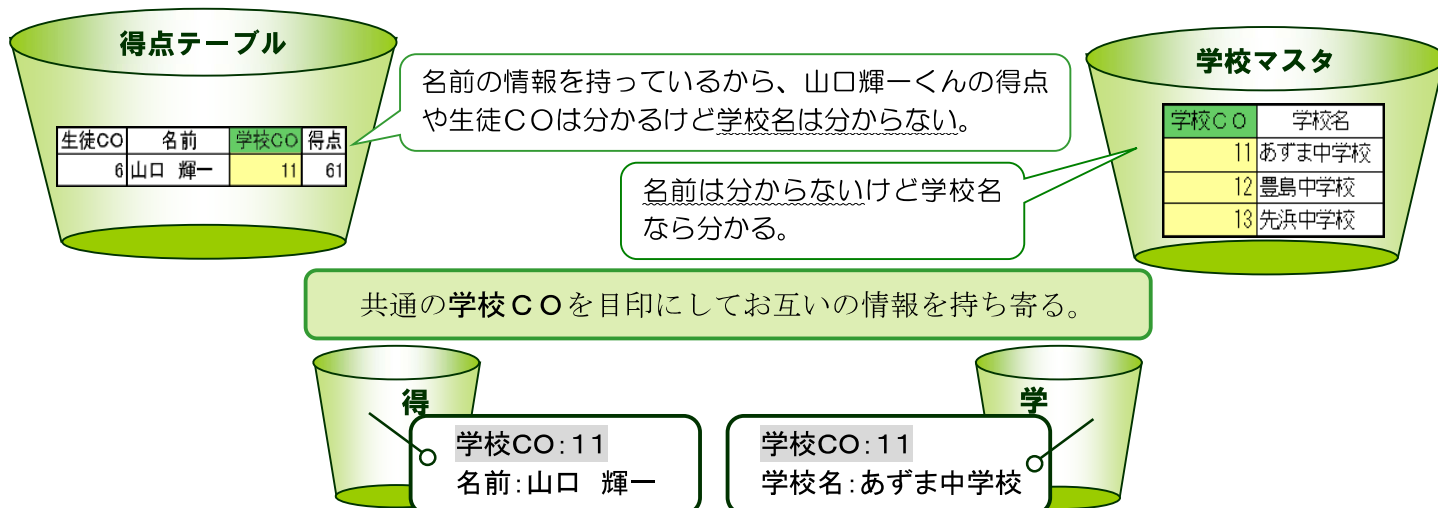


学校マスタは、学校CO・学校名という情報を持っています。

学校マスタと得点テーブルは、**学校CO**という共通の情報を持っているので、この二つを関連付けます。

例えば・・・

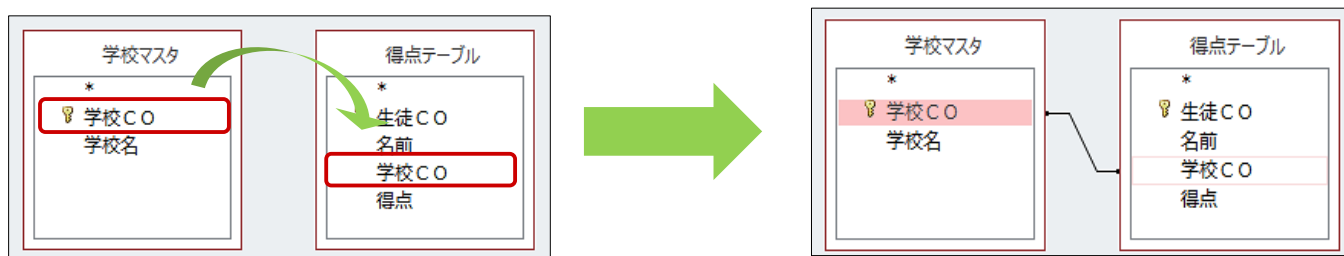
山口 輝一くんの学校名を知りたい場合



関連付けをすることで、必要に応じて欲しい情報を引き出すことができます。

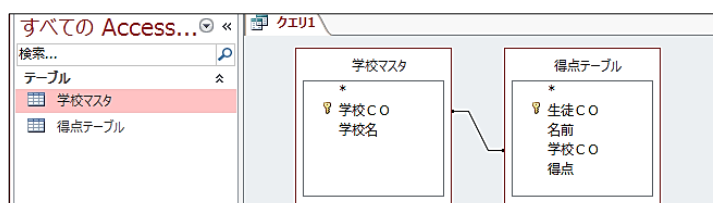
- それぞれの学校COを関連付けしなさい。

フィールドをドラッグして関連付けします。



操作のポイント

クエリのフィールドリストにテーブルを追加するとフィールド名・データ型が一致した場合は自動的に関連付け（結合）される場合があります。



項目の選択

ここでは＜出力例＞を参照して必要な項目（フィールド）を選択します。

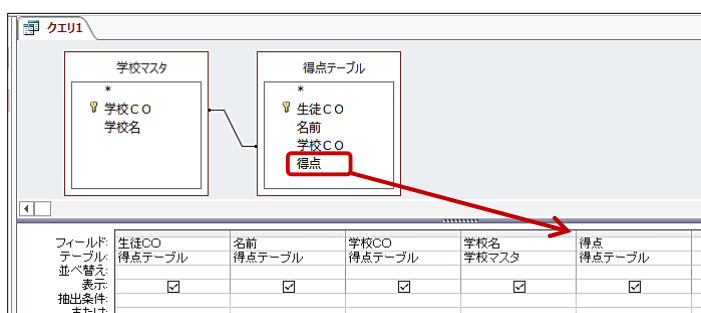
＜出力例＞

高得点者一覧表（50点以上）

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

1. ＜出力例＞のとおりに、それぞれの項目を選択しなさい。

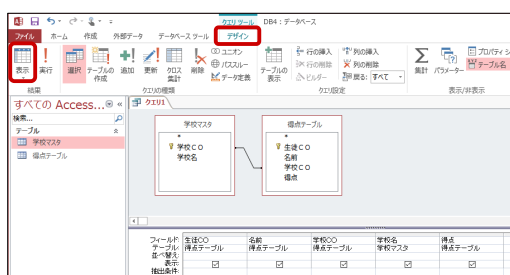
(1)「得点テーブル」の「生徒CO」、「名前」、「学校CO」を順にドラッグしてクエリデザイングリッドに追加します。続けて「学校マスタ」の「学校名」と「得点テーブル」の「得点」を順に追加します。



検定のポイント

項目をダブルクリックしても追加できます。

(2) [クエリツール]-[デザイン]タブ [データシートビュー] をクリックし、データが表示されているか確認します。



生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
1	加藤 たかし	11	あずま中学校	42
2	橋本 信次	12	豊島中学校	34
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

操作のポイント

※余分な項目を追加した場合、フィールドの上をクリックして [Delete] キーを押すと削除できます。

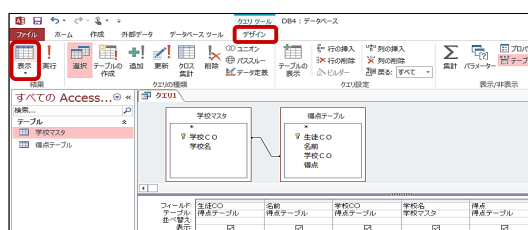
フィールド テーブル 並べ替え 表示 抽出条件 または	生徒CO 得点テーブル	名前 得点テーブル	学校CO 得点テーブル	学校名 学校マスタ	得点 得点テーブル	得点 得点テーブル
	☒	☒	☒	☒	☒	☒

※クエリのデザインビューとデータシートビューの切り替え

デザインビューで項目の選択や、条件設定を行った際はデータシートビューに切り替えて確認します。

＜デザインビュー＞

＜データシートビュー＞



生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
1	加藤 たかし	11	あずま中学校	42
2	橋本 信次	12	豊島中学校	34
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

[クエリツール]-[デザイン]タブ

[ホーム]タブ [表示] をクリックします。

[データシートビュー] をクリックします。

抽出条件の設定

<処理条件>で指示された条件「50点以上」のデータのみを表示させます。これを「抽出」といいます。

1. 得点が 50 以上を抽出しなさい。
[処理結果件数：5 件]

- (1) 「得点」の抽出条件の行に「>=50」と入力します。

フィールド: テーブル 並べ替え: 表示 抽出条件: またほ	生徒CO 得点テーブル	名前 得点テーブル	学校CO 得点テーブル	学校名 学校マスタ	得点 得点テーブル
	☒	☒	☒	☒	☒
					>=50

検定のポイント

日付／時刻型の項目で条件を入力すると前後に「#」が付きます。

抽出条件: 2021/04/01
またほ: #2021/04/01#

操作のポイント

必ず半角で入力してください。

比較演算子

条件文	設定例
得点が 50	=50
得点が 50 より小さい (未満)	<50
得点が 50 より大きい	>50
得点が 50 以下	<=50
得点が 50 以上	>=50
得点が 50 以外	<>50

- (2) [データシートビュー]をクリックして結果の確認をします。

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

クエリの保存

- (1) クエリウィンドウ右上の [閉じる] をクリックします。

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

- (2) [クエリの変更を保存しますか?]と表示されるので、[はい] をクリックし、「処理」と入力します。

Microsoft Access

クエリ1' クエリの変更を保存しますか?

名前を付けて保存

クエリ名:

検定のポイント

クエリ名は任意の名前で構いません。

レポートの作成

レポートについて

レポートは、テーブルまたはクエリの結果をタイトル・罫線などの機能を用いて帳票として整えます。試験では、この部分まで完成させて答案を印刷します。

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

表形式

並べ替え

高得点者一覧表 (50点以上)				
生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

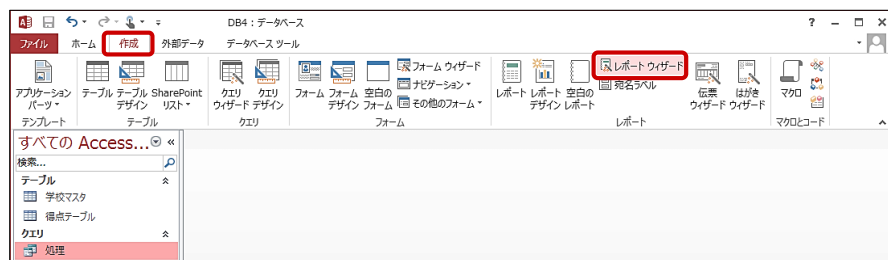
2. 表を作成しなさい。

表題は“高得点者一覧表（５０点以上）”とする。

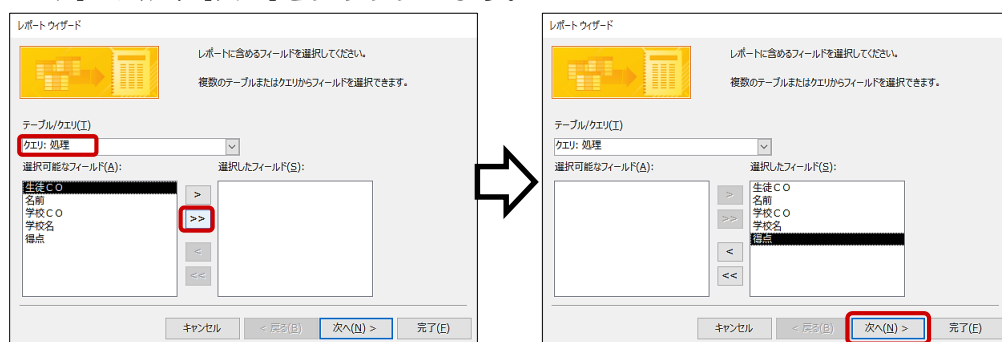
データの並び順は得点の降順とし、表の形式は＜出力例＞のとおりとする。

レポートの新規作成

(1) [作成]タブ-[レポート]グループの[レポートウィザード]をクリックします。



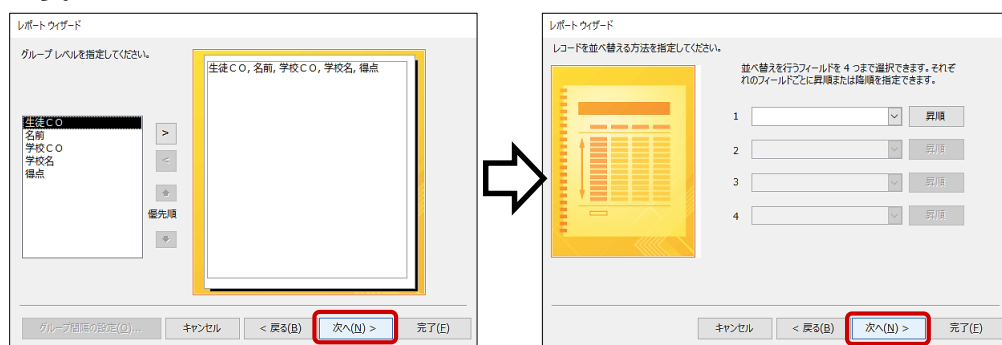
(2) [テーブル/クエリ]で「クエリ: 処理」を選択し、[>>]（すべて選択）をクリックして[選択したフィールド]へ入れ、[次へ]をクリックします。



操作のポイント

※レポートを作成する際、クエリで抽出した項目の中で、＜出力例＞では表示しない項目があります。その場合、[>]・[<]といった（単一選択）もしくは[>>]・[<<]（すべて選択）を使って[選択可能なフィールド]から[選択したフィールド]へ移動させます。

(3) グループレベルは、何も設定せず[次へ]をクリックします。レコードを並べる方法も[次へ]をクリックします。



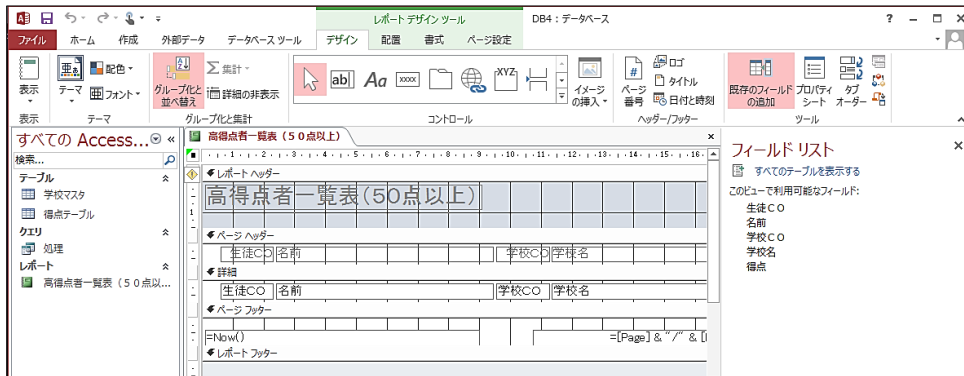
検定のポイント

レポートウィザードで並べ替えを行うと項目の並びが変わるためここでは行わず、後で行います。

(4) レポートの印刷形式の[レイアウト]は、[表形式]を選択し、[印刷の向き]は、[縦]になっていることを確認し、[次へ]をクリックします。レポート名を＜処理条件＞で指示された表題「高得点者一覧表（５０点以上）」と入力し、[レポートのデザインを編集する]にチェックを入れて[完了]をクリックします。



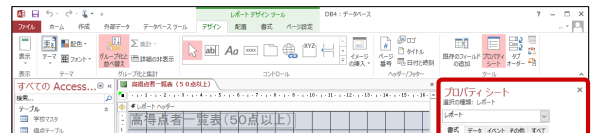
(5) レポートが作成され、デザインビューが表示されました。



レポートでは罫線と並べ替えの処理が必要です。レイアウトビューとデザインビューを切り替えながら設定していきます。

操作のポイント

※表示形式の設定などでプロパティシートが必要になるため、[レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[ツール]グループの[プロパティシート]をクリックします。



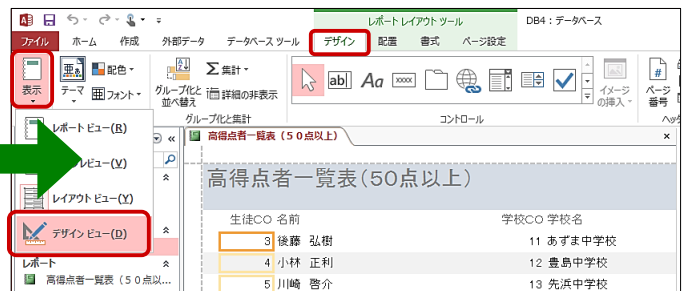
レポートのデザインビュー・レイアウトビューの切り替え

レポートでの列幅の調整や、罫線処理などは、[デザイン]タブ-[表示]グループの[表示]で[デザインビュー]、[レイアウトビュー]、[印刷プレビュー]を切り替えながら設定します。

<デザインビュー>



<レイアウトビュー>



<印刷プレビュー>

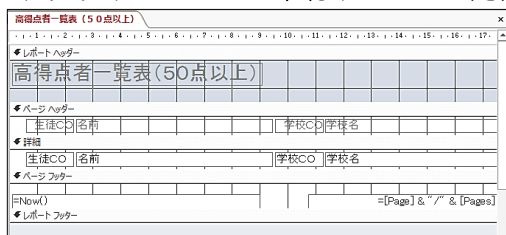


高得点者一覧表 (50点以上) 001 日横 太郎

生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61
4	小林 正利	12	豊島中学校	60
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50

操作のポイント

レポートデザインビューと印刷イメージの関係

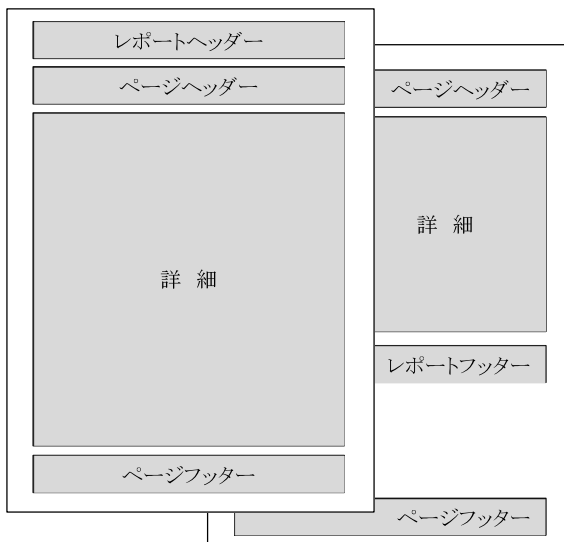


(1) 印刷イメージ（1 ページ）



- ・[レポートヘッダー]、[詳細]、[ページヘッダー]などの各セクションは印刷イメージでは下図のような配置になります。

(2) 印刷イメージ（複数ページ）



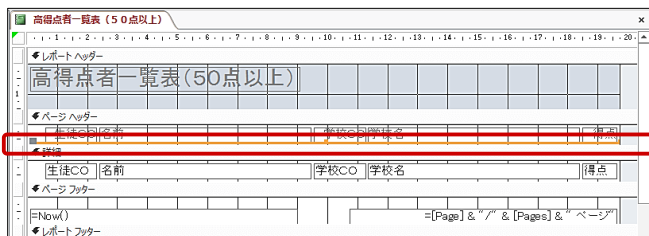
罫線の挿入

＜出力例＞のようにページヘッダー下部に罫線を挿入します。

- (1) [レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[コントロール]グループの右下の [その他] を選択し、一覧の中にある [直線] を選択します。



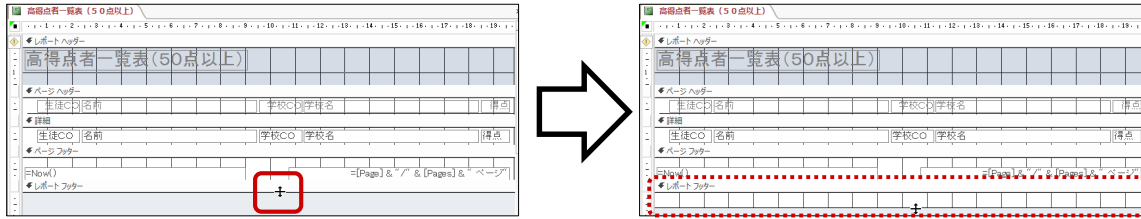
- (2) のようなカーソルになったら [Shift] キーを押しながらページヘッダーのラベルの下にドラッグして挿入します。



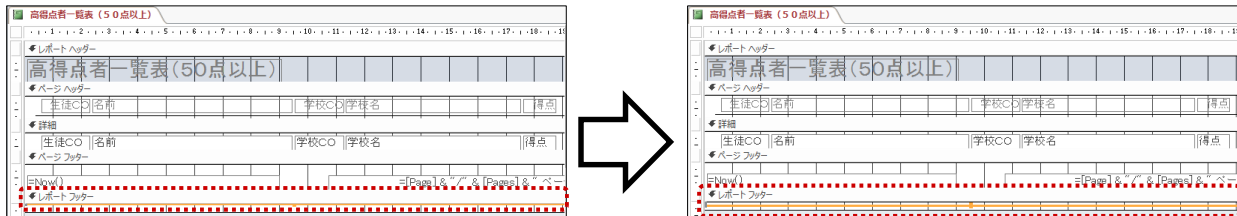
操作のポイント

- ラベルとテキストボックス
- ラベル：表題などを表示する
- テキストボックス：テーブルやクエリのデータを表示する

(3) カーソルをレポートフッターの下部に合わせ、カーソルが $\uparrow$ になったら下ヘドラッグし、レポートフッターの領域を広げます。



(4) ページヘッダーの罫線をコピーし、レポートフッターをクリックして罫線を貼り付けます。[レポートフッター]の最上部に貼り付けられるので、少し下に移動します。



操作のポイント

ショートカット

コピー：[Ctrl]キー+[C]キー 貼り付け：[Ctrl]キー+[V]キー

罫線の位置揃え

[レポートフッター]に貼り付けた罫線は[ページヘッダー]で引いた罫線の縦位置とずれている場合があります。[レポートデザインツール]-[配置]タブ-[サイズ変更と並べ替え]グループの[配置]をクリックし、[左]を選択します。

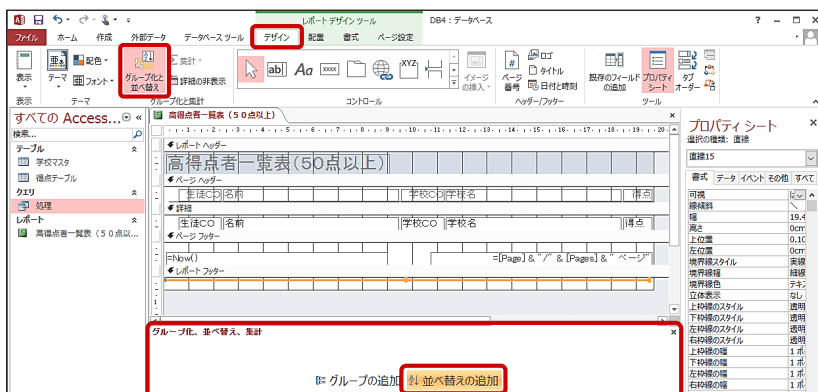


並べ替えの設定

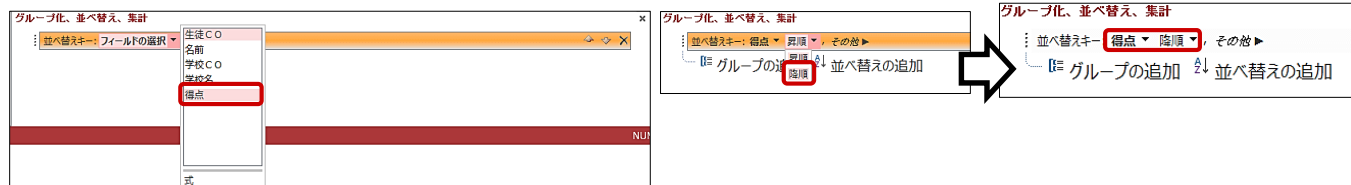
並べ替えの設定をします。

2. データの並び順は得点の降順とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

(1) [レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[グループ化と集計]グループの [グループ化と並べ替え] をクリックします。[グループ化、並べ替え、集計]グループが表示されたら[並べ替えの追加]をクリックします。



(2) [並べ替えキー]を「得点」にし、[降順]に設定します。



高得点者一覧表(50点以上)		
生徒CO 名前	学校CO 学校名	得点
3 後藤 弘樹	11 あずま中学校	52
4 小林 正利	12 豊島中学校	60
5 川崎 啓介	13 先浜中学校	83
6 山口 輝一	11 あずま中学校	61
7 鈴木 隆弘	12 豊島中学校	50



高得点者一覧表(50点以上)		
生徒CO 名前	学校CO 学校名	得点
5 川崎 啓介	13 先浜中学校	83
6 山口 輝一	11 あずま中学校	61
4 小林 正利	12 豊島中学校	60
3 後藤 弘樹	11 あずま中学校	52
7 鈴木 隆弘	12 豊島中学校	50

体裁を整える

<問題>

1. 文字は左揃え、数値は桁揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。

<出力例>のように体裁を整えます。データの内容を見ながら幅を調整するためレイアウトビューに切り替えます。

■ テキストボックスの幅の調整

テキストボックスをクリックして枠の右側からドラッグして整えます。

高得点者一覧表(50点以上)		
生徒CO 名前	学校CO 学校名	得点
5 川崎 啓介	13 先浜中学校	83
6 山口 輝一	11 あずま中学校	61
4 小林 正利	12 豊島中学校	60
3 後藤 弘樹	11 あずま中学校	52
7 鈴木 隆弘	12 豊島中学校	50

検定のポイント

表示しきれない項目やデータがあると、減点や不合格になります。最終的に印刷プレビューで表示されているか必ず確認し、幅の調整を行ってください。

■ ラベルを中央揃えにする

ラベルを選択してからドラッグして調整します。

高得点者一覧表		
生徒CO	名前	
5	川崎 啓介	
6	山口 輝一	
4	小林 正利	
3	後藤 弘樹	
7	鈴木 隆弘	

操作のポイント

ラベル テキストボックス	サイズ変更	[Shift] キーを押しながら、矢印キーで変更
	移動	矢印キーで移動（微調整は [Ctrl] キーを押しながら矢印キー）
	複数選択	[Shift] キーを押しながら、各ラベル・テキストボックスをクリック

その他の設定

練習問題にない設定について解説します。

表示形式の設定

<問題>や<処理条件>の中に表示形式の指示があります。指示に従って表示形式の設定を行います。

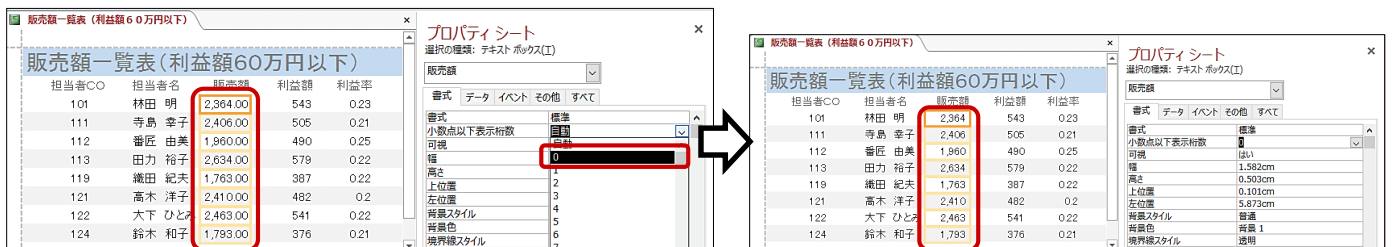
<問題>

1. 文字は左揃え、数値は桁揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。

(1) 表示形式を変更したいテキストボックスを選択し、[プロパティシート]の[書式]タブの[書式]から[標準]を選択します。



(2) 小数点以下の表示があるので、[小数点以下表示桁数]から[0]を選択します。



操作のポイント

その他の表示形式について

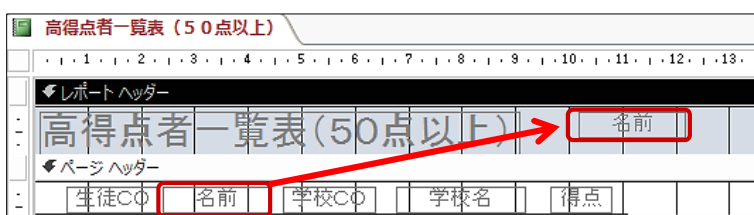
指示によって以下のような設定をする場合があります。処理条件指示に従って表示形式設定をしてください。

処理条件の表示の指示	書式	小数点以下表示桁数
3桁ごとにコンマ 整数未満四捨五入	標準	0
3桁ごとにコンマ 小数第2位未満四捨五入	標準	2
%の小数第1位未満四捨五入	パーセント	1
通貨表示	通貨	0

受験番号・名前の入力について

受験番号、名前はレポートの任意の箇所（レポートヘッダーやレポートフッターなど）に入力します。
設定例）

(1) [ページヘッダー]のラベル「名前」をコピーし、レポートヘッダーに貼り付けます。



検定のポイント

どのラベルでも構いません。

(2) ラベル内に受験番号・名前を入力します。

高得点者一覧表 (50点以上)												
レポートヘッダー												
高得点者一覧表(50点以上)										001	日検 太郎	
ページヘッダー												
生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点								

印刷プレビューについて

体裁を整えた後、[レポートレイアウトツール]-[デザイン]タブ-[表示]グループの[印刷プレビュー]を選択します。罫線が引かれているか、項目が正しく表示されているか、処理どおりに並べ替えがされているかなど確認します。

高得点者一覧表 (50点以上)												
レポートヘッダー												
高得点者一覧表(50点以上)										001	日検 太郎	
ページヘッダー												
生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点								
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83								
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61								
4	小林 正利	12	豊島中学校	60								
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52								
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50								

検定のポイント

※フォントサイズ、種類、色、書体、罫線の太さ、色は問いません。また、文字に網かけがされていても減点としません。ページフッターに、日付やページ番号が印刷されていても減点としません。
※項目の一部が切れていたり、2ページに渡っていたりする場合は減点となります。

試験後にすること

解答の印刷

解答の印刷は試験時間後に行います。

解答の印刷例

高得点者一覧表 (50点以上)												
レポートヘッダー												
高得点者一覧表(50点以上)										001	日検 太郎	
ページヘッダー												
生徒CO	名前	学校CO	学校名	得点								
5	川崎 啓介	13	先浜中学校	83								
6	山口 輝一	11	あずま中学校	61								
4	小林 正利	12	豊島中学校	60								
3	後藤 弘樹	11	あずま中学校	52								
7	鈴木 隆弘	12	豊島中学校	50								

情報処理技能検定試験(データベース) 3級練習問題

<問 題>

- 各テキストデータ（日本語シフト J I S、C S V形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。

文字は左揃え、数値は桁揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。

- テキストデータはDB3-00 フォルダ内のデータを使用する。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

生徒マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	CO	長整数型	1001
	名前	テキスト型	加藤 たかし
	学校CO	長整数型	11

※生徒マスタ.csvの1行目は項目名とする。

学校マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	学校CO	長整数型	11
	学校名	テキスト型	あずま中学校

※学校マスタ.csvの1行目は項目名とする。

得点テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	CO	長整数型	1001
○	回数	テキスト型	第1回
	数学	長整数型	42
	英語	長整数型	50

<処理条件>

数学が80点以上または英語が80点以上の試験結果一覧表を作成する。

- それぞれのCO・学校COを関連付けしなさい。

COごとに合計を求めなさい。 合計=数学+英語

数学が80以上または英語が80以上を抽出しなさい。

[処理結果件数：7件]

- 合計の最高点を求めた表を作成しなさい。

表題は“試験結果一覧表（数学80点以上または英語80点以上）”とする。

データの並び順はCOの昇順で合計の降順とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

試験結果一覧表（数学 80 点以上または英語 80 点以上）							
CO	名前		学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口	輝一	あずま中学校	第 2 回	39	87	126
}							
1007	川崎	啓介	先浜中学校	第 1 回	83	90	173
						最高点	XXX

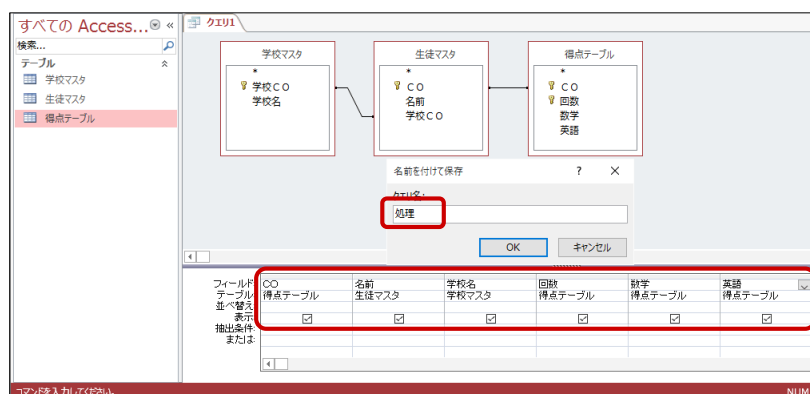
3 級練習問題解答方法

3 級から出題される基準の処理条件のみ解説します。使用データは「DB3-00」フォルダーを使用します。

計算式の設定

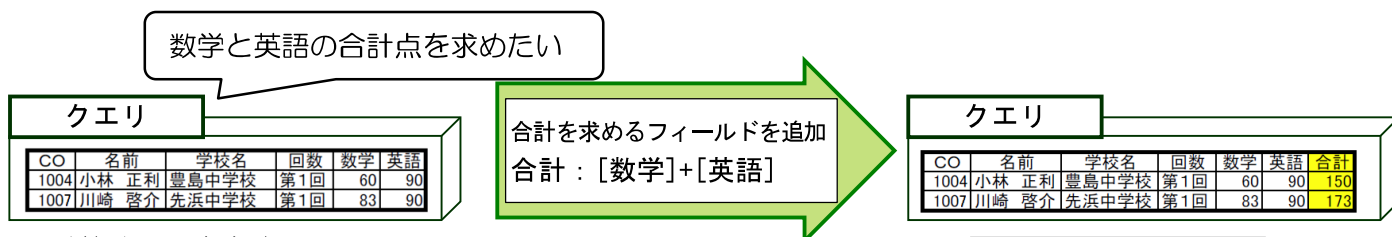
- それぞれのCO・学校COを関連付けしなさい。
COごとに合計を求めなさい。 合計＝数学＋英語

(1)すべてのテーブルをインポート後、関連付けをし、＜出力例＞を参照して必要な項目を選択してクエリを「処理」という名前で保存します。



各テーブルの項目を使って計算することができます。

「得点テーブル」の「数学」と「英語」の合計を求めたい場合、計算式を使用して合計点を表示することができます。



＜計算式の設定方法＞

指示された項目名：計算式

この処理条件の場合は、

合計：[数学]+[英語] ※記号はすべて半角で入力します

となります。

「式ビルダー」を使用し設定します。

操作のポイント

項目名について

テーブルで設定された項目名以外に、計算式やクエリでの集計などで新たに項目名を設定する場合があります。項目名を設定する際には式の前に「項目名」を入力し「:」半角コロンを付けてください。

＜例＞

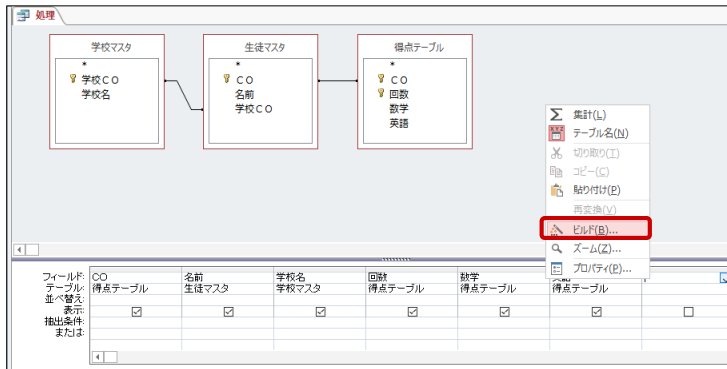
項目名
合計：[数学]+[英語]

操作のポイント

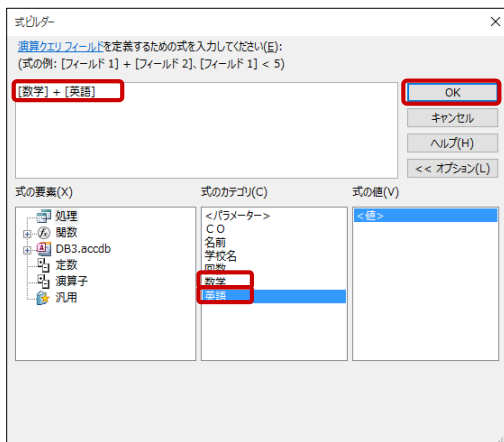
算術演算子（四則演算子）を覚えよう。

演算子	読み方	意味
+	プラス	たし算
-	マイナス	ひき算
*	アスタリスク	かけ算
/	スラッシュ	わり算

- (2) 計算式を設定するフィールドの上で右クリックし、[ビルド]を選択します。
 ([クエリ]ツール-[デザイン]タブ-[クエリ設定]の[ビルダー]でも同様にできます)



- (3) [式のカテゴリ]の[数学]をダブルクリックし、「+」を半角で入力します。次に[英語]をダブルクリックし、[OK]をクリックします。



操作のポイント

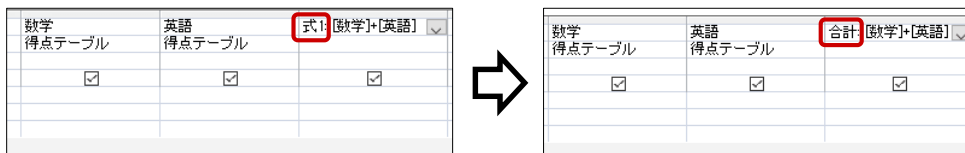
式ビルダーについて

表示するフィールドを選択した後にクエリを保存していないと[式のカテゴリ]にフィールドが表示されません。この場合、一度保存し直してください。

注意点

- 数値・関数・計算式などを入力する際は、必ず半角で入力してください。半角でない場合、正しく認識されません。
- 「数学」や「英語」のフィールドを[式のカテゴリ]から選択すると自動的に大括弧（[]）が付加されます。

- (4) 計算式の前の「式 1」を「合計」と変更します。



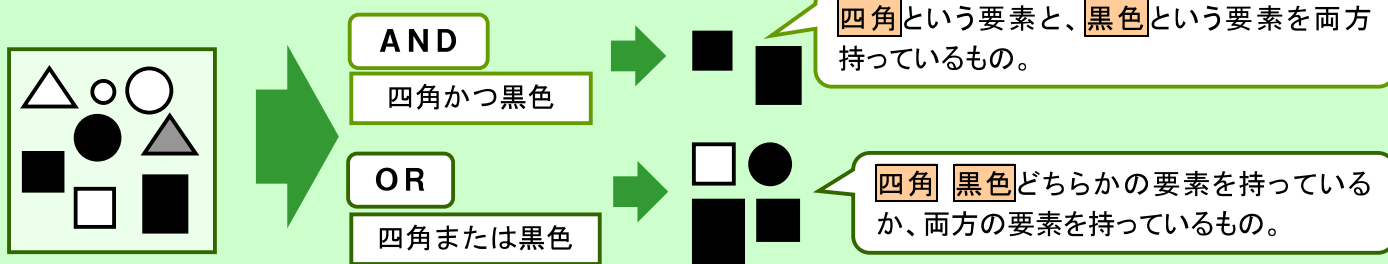
(5)「合計」の計算ができていないかデータシートビューで確認します。

処理	CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
	1001	加藤 たかし	あずま中学校	第1回	42	50	92
	1001	加藤 たかし	あずま中学校	第2回	32	46	78
	1002	山口 輝一	あずま中学校	第1回	51	33	84
	1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
	1003	橋本 信次	豊島中学校	第1回	63	50	113
	1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
	1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
	1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
	1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第1回	50	45	95
	1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
	1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第1回	34	61	95
	1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第2回	65	54	119
	1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
	1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

複数条件によるレコードの抽出

複数の条件でレコードを抽出する場合、AND条件かOR条件を使用します。

ANDとORについて



OR条件

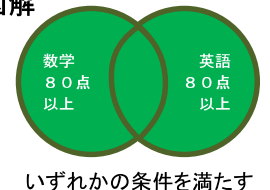
1. 数学が 80 以上または英語が 80 以上を抽出しなさい。
[処理結果件数：7 件]

この処理条件は「数学」か「英語」のいずれかの項目の値が「80点以上」であるものを抽出します。
OR条件を使ってレコードを抽出します。

CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1001	加藤 たかし	あずま中学校	第1回	42	50	92
1001	加藤 たかし	あずま中学校	第2回	32	46	78
1002	山口 輝一	あずま中学校	第1回	51	33	84
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第1回	63	50	113
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第1回	50	45	95
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第1回	34	61	95
1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第2回	65	54	119
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

図解



- (1)「数学」の[抽出条件]に「>=80」、1行ずらして「英語」の[抽出条件]に「>=80」を入力します。

フィールド:	CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計: [数学]+[英語]
テーブル	得点テーブル	生徒マスタ	学校マスタ	得点テーブル	得点テーブル	得点テーブル	
並べ替え:							
表示:	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒
抽出条件:					>=80		
または:						>=80	



処理	CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
	1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
	1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
	1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
	1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
	1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
	1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
	1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

AND条件

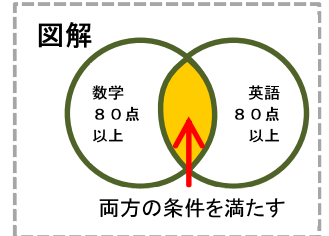
1. 数学が 80 以上かつ英語が 80 以上を抽出しなさい。
[処理結果件数：2 件]

※この処理条件は練習問題 3 級<処理条件>1 の条件として行ってください。

この処理条件は「数学」と「英語」の両方の値が「80 点以上」であるものを抽出します。
AND条件を使ってレコードを抽出します。

CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1001	加藤 たかし	あずま中学校	第1回	42	50	92
1001	加藤 たかし	あずま中学校	第2回	32	46	78
1002	山口 輝一	あずま中学校	第1回	51	33	84
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第1回	63	50	113
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第1回	50	45	95
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第1回	34	61	95
1006	後藤 弘樹	先浜中学校	第2回	65	54	119
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185



- (1) 同じ行に「数学」の[抽出条件]に「>=80」、「英語」の[抽出条件]に「>=80」を入力します。

フィールド:	CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計: [数学]+[英語]
テーブル:	得点テーブル	生徒マスタ	学校マスタ	得点テーブル	得点テーブル	得点テーブル	
並べ替え:							
表示:	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒
抽出条件:					>=80	>=80	
または:							

CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185

レポートでの関数処理

レポート上で、抽出したデータの合計や平均などを表示する場合、関数を使用した処理を行います。

試験結果一覧表 (数学80点以上または英語80点以上)						
CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173

試験結果一覧表 (数学80点以上または英語80点以上)						
CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
						最高点 185

ここに「最高点」のラベルを表示したい

ここに「合計」の最高点の数値を表示したい

この処理条件では、「合計」の最高（最大）点を表示し求めます。

2. 合計の最高点を求めた表を作成しなさい。

- (1) テキストボックスをコピーします。

[詳細]セクションのテキストボックス「合計」をコピーし[レポートフッター]に貼り付けます。

試験結果一覧表 (数学80点以上または英語80点以上)						
CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173

試験結果一覧表 (数学80点以上または英語80点以上)						
CO	名前	学校名	回数	数学	英語	合計
1002	山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
1003	橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
1004	小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
1004	小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
1005	鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185
1007	川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173
						合計

(2)関数を設定します。

コピーしたテキストボックスを「合計」と同じ列に移動し[F 2]キーを押して、「=max(合計)」と入力します。

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Max([・・・])」となり関数の頭文字が大文字になります。

<その他の関数>

合 計 : =Sum(項目名)
平 均 : =Avg(項目名)
最 小 : =Min(項目名)
カウント : =Count(項目名)

(3)ラベルのコピー・修正変更をします。

[ページヘッダー]のラベル「合計」をコピーし、レポートフッターに貼り付け、ラベル内の文字「合計」を「最高点」に変更します。



(4)レイアウトビューもしくは印刷プレビューで結果を確認します。

名前	学校名	回数	数学	英語	合計
山口 輝一	あずま中学校	第2回	39	87	126
橋本 信次	豊島中学校	第2回	88	50	138
小林 正利	豊島中学校	第1回	60	90	150
小林 正利	豊島中学校	第2回	49	100	149
鈴木 隆弘	豊島中学校	第2回	57	95	152
川崎 啓介	先浜中学校	第2回	100	85	185
川崎 啓介	先浜中学校	第1回	83	90	173

操作のポイント

ラベルとテキストボックス

ラベル：表題などを表示する

テキストボックス：テーブルやクエリのデータを表示する

ラベルかテキストボックスか判別できない

プロパティシートを表示させ、該当するものを選択すると、プロパティシートの上部に種類が表示されます。

その他の問題

練習問題にない処理条件について解説します。

グループ化（集計）処理

1. 学校CO・学校名ごとに数学・英語を集計（平均）しなさい。
[処理結果件数：3件]

※この処理条件は練習問題3級＜処理条件＞1の条件として行ってください。

この処理条件は、「学校CO」・「学校名」ごとにまとめた「数学」と「英語」の平均点を求めるため「学校CO」と「学校名」をグループ化して「集計」（ここでは平均）を行います。

学校CO	学校名	数学	英語
11	あずま中学校	42	50
11	あずま中学校	32	46
11	あずま中学校	51	33
11	あずま中学校	39	87
12	豊島中学校	63	50
12	豊島中学校	88	50
12	豊島中学校	60	90
12	豊島中学校	49	100
12	豊島中学校	50	45
12	豊島中学校	57	95
13	先浜中学校	34	61
13	先浜中学校	65	54
13	先浜中学校	83	90
13	先浜中学校	100	85

学校CO	学校名	数学	英語
11	あずま中学校	41.0	54.0
12	豊島中学校	61.2	71.7
13	先浜中学校	70.5	72.5

クエリで項目ごとにまとめた数値の集計（合計や平均など）の結果を求める場合、集計クエリを使用します。

- (1) 「学校CO」、「学校名」、「数学」、「英語」を選択してデザイングリッドに表示します。[デザイン]タブ-[表示/非表示]グループの  [集計] をクリックします。



- (2) 集計の行をクリックして「学校CO」・「学校名」はグループ化、「数学」・「英語」は平均を一覧から選択します。

フィールド:	学校CO	学校名	数学	英語
テーブル:	学校マスタ	学校マスタ	得点テーブル	得点テーブル
集計:	グループ化	グループ化	平均	平均
並べ替え:				
表示:	☒	☒	☒	☒
抽出条件:				
また:				



学校CO	学校名	数学の平均	英語の平均
11	あずま中学校	41	54
12	豊島中学校	61.1666666666667	71.6666666666667
13	先浜中学校	70.5	72.5

- (3) 「数学の平均」と表示されている項目名を修正します。「数学」のフィールドには「数学:数学」（「:」は半角で入力）「英語」も同様に「英語:英語」と入力します。

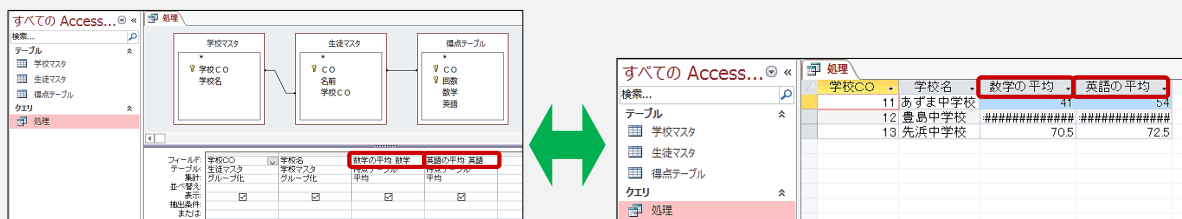
フィールド:	学校CO	学校名	数学: 数学	英語: 英語	
テーブル:	学校マスタ	学校マスタ	得点テーブル	得点テーブル	
集計:	グループ化	グループ化	平均	平均	
並べ替え:					
表示:	☒	☒	☒	☒	☒
抽出条件:					
また:					



学校CO	学校名	数学	英語
11	あずま中学校	41	54
12	豊島中学校	61.1666666666667	71.6666666666667
13	先浜中学校	70.5	72.5

検定のポイント

項目名を未設定のままクエリを保存して閉じ、再度開くと、下図のように項目名が変更されます。クエリの集計処理の際には指示どおりの項目名を設定する必要があります。



グループ化処理の応用

抽出条件で使用する項目を、グループ集計処理の対象としない場合、集計の設定に「Where 条件」を使用します。

(例：3級－13 P. 56)

- それぞれの講座CO・名前COを関連付けしなさい。
学校名が“上台小学校”以外を抽出しなさい。
講座CO・講座名ごとに参加費を集計（合計）しなさい。
参加費の集計は“参加費合計”とする。
[処理結果件数：5件]

使用する項目を選択し、集計の設定を行います。その際、抽出条件に使用する「学校名」項目の集計をそのまま「グループ化」としておくと、集計も「講座CO」・「講座名」・「学校名」ごとになってしまいます。

フィールド:	講座CO	講座名	参加費合計: 参加費	学校名
テーブル:	参加テーブル	講座マスタ	講座マスタ	名前マスタ
集計:	グループ化	グループ化	合計	グループ化
並べ替え:				
表示:	☒	☒	☒	☒
抽出条件:				<> 上台小学校 </>
または:				

- (1) 集計は「講座CO」・「講座名」ごとに行う必要があるため、「学校名」を抽出条件としてのみ使用するには[集計]を[Where 条件]に設定します。

フィールド:	講座CO	講座名	参加費合計: 参加費	学校名
テーブル:	参加テーブル	講座マスタ	講座マスタ	名前マスタ
集計:	グループ化	グループ化	合計	Where 条件
並べ替え:				
表示:	☒	☒	☒	☐
抽出条件:				<> 上台小学校 </>
または:				

- (2) 「学校名」の条件で抽出した結果、「講座CO」・「講座名」ごとに集計されました。

講座CO	講座名	参加費合計
10	料理	4500
20	ものづくり	4000
30	お菓子	10000
40	科学工作	7800
50	ガーデニング	33000